

家庭連合時代のパラダイムを定着させ、救国救世の先頭に立とう！

「2017 新年全国責任者会議」開催

「2017 新年全国責任者会議」が1月17日、宮崎台国際研修センター（川崎市）で開催され、全国の牧会者・婦人代表、本部責任者、統一運動諸団体のリーダーなど約700人が参加。会議の様子は全国の教会にもネット中継され、すべての公職者が天の願いと摂理の方向性を共有しながら、心を一つにして新年を出発する機会となりました。

午前11時、李成萬本部長の司会で始まった会議は、田中富広副会長の代表報告祈祷の後、1月3日に韓国・天正宮博物館で開かれた「2017 年天一国指導者 新年特別集会」での真のお母様のみ言映像が上映されました。

続いて、徳野英治会長が講話を行い、「言語の壁は心情の壁にもなりやすい。真のお母様と心情一体化するためにも、今年は韓国語を学ぶ努力をしましょう」と語りました。

また、昨年12月に福島家庭教会と岡山教区がそれぞれ、2000人大会と3000人大会を勝利したことをお母様に報告したエピソードを紹介。「お母様が『日本に県と言われるものはいくつあるの』と聞かれたので、『47あります』とお答えすると、お母様は『県ごとに1万人大会を準備できれば、私が直接行くよ』と語られたのです。お母様ご自身が2017年における日本の伝道の勝利に大きな期待をかけられ、祝福して下さったのです」と述べ、大会実現を通して新規伝道を推進し、実質的な教会成長を成し遂げようと呼びかけました。

午後の部では、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長ご夫妻が登壇。

まず李海玉総会長夫人が挨拶し、聖書から「イザヤ書」(43:1)の聖句を引用した上で、「天が直接呼び出し、『あなたはわたしのものだ』と立たせてくださったのが皆さん一人ひとりです。天が立てた中心人物と一つになれば、天が必ず役事してくださるでしょう」と語りました。

続いて宋龍天総会長が、「新しい時代のパラダイム」と題して1時間20分にわたってメッセージを語り、「私たちが真のお母様と一直線となり、勝利圏を受け



左から徳野英治会長、
宋龍天総会長、
李海玉総会長夫人

継ぐことができれば、必ず天の夢を実現させることができます」と訴えました。その一部を抜粋して紹介します。

「家庭連合時代のパラダイム(時代精神)は何でしょうか?すべての祝福家庭が第2の真の父母となり、天の前に直接報告し、天の父母様と真の父母様に各家庭で侍ることで義とされる『侍義時代』と呼ばれるものです。

ところが私たちは、(1995年3月の『サンパウロ宣言』を通して)真の父母様が地上に家庭連合の新しいパラダイムを展開し、家庭連合の新しいフレームを立てられたという事実をはっきりとは理解していませんでした。もし私たちがそれらを完全に理解し、真の父母様に侍り、完全に勝利していたならば、家庭連合完成を通じた天一国は、新千年紀と共に出発するはずでした。それどころか、私たちは家庭連

合を再び統一教に戻す愚を犯しましたが、真のお父様が聖和された後、基元節を経てから真のお母様を通して、再び家庭連合の理想は出発したのです。

2017年を新たに迎え、私は自分自身に常に言い聞かせている言葉があります。それは『NEVER AGAIN!』という言葉です。再び繰り返さないようにしようという意味の『NEVER AGAIN!』は、イスラエルの人々が成人式をする日に叫ぶ言葉で、彼らの精神的スローガンでもあります。600万人が殺戮されたホロコーストをはじめとする過去の悲劇と屈辱の歴史を二度と繰り返さないという精神です。人口の少ないイスラエル・ユダヤ人は、天の父母様を中心として徹底した信仰を保っているが故に、世界のあらゆる分野で大きな影響力を持っています。

私たちが第4イスラエルとして、救国救世基盤を造成し国家を導いていくことのできる力を持つよう

になることを願い、『NEVER AGAIN!』と唱えましょう。

過去の失敗を繰り返す愚かな人になってはいけないというのが、真のお母様の新年のみ言の核心でした。真のお父様の在世時に救国救世基盤の造成を成して真のお父様に正しく侍った上で、聖和の日を迎えなければなりません。その失敗を繰り返してはいけないという意味で、真のお母様は『私たちの願いは国家の復帰です』と強調して下さいました。

会議は、昨年度の表彰、金満辰第5地区長の決意表明などの後、小藤田喜文第8地区長の発声で億万歳四唱を行い、閉幕。参加者は、救国救世基盤造成の先頭に立ち、母の国・日本の使命を全うしていく決意を新たにしてお出しました。

“神様と人類の願いは真の父母”

文妍娥様を迎えて首都圏で特別集会



1月19日から26日まで日本に滞在された文妍娥様は、20日夜に東京・渋谷の松濤本部で行われた「第5地区青年学生特別集会」をはじめ、第14地区（21日、千葉・一心特別教育院）、第3地区（23日、栃木・宇都宮家庭教会）、第4地区（24日、群馬・高崎家庭教会）、第6地区（25日、川崎・宮崎台研修センター）、第5地区（26日、東京・新宿家庭教会）を訪れ、首都圏の多くの食口・祝福家庭を慰労しながら、天の父母様・真の父母様の愛とみ言を届けてくださいました。

今回は、妍娥様をお迎えして各地区で行われた特別集会の参加者の感想と、「第5地区青年学生特別集会」における妍娥様のメッセージを紹介します。

【参加者の感想】

■ “天の父母様を心情で感じよう”

印象に残ったことは、妍娥様が繰り返し強調された「天の父母様を頭ではなく心情で感じられるようにならないといけない」ということでした。天の父母様・真の父母様との関係には4段階あり、①信仰する、信じる②一つひとつ学んで経験して知る③一緒に暮らす（侍る）④愛の一体関係・心情が通じる（地上天国生活）——と言われていましたが、私は今、①の段階に戻っていることに気付かされました。霊界で天の父母様に侍って暮らすためにも、地上でたくさん天の父母様との因縁を結んでおかないといけないし、出来たか出来なかったかではなく、そこに向けて努力したことが心情に刻まれていくのだと感じました。これからはお母様のみ言や『原理講論』などを訓読するときは、天の願い・心情・事情を考えなが

ら訓読し、お母様の動向に関心をもつことを実践していると思います。（第5地区・祝福二世<女性>）

■ メッセージから多くの恩恵と悟り

牧会者として、いつも自分が真の父母様を証すことに限界を感じ、心苦しい時が多かったのですが、きょうの妍娥様のメッセージを通じて、多くの恩恵と悟りを得ました。日本の復興にはきょう語られた内容が絶対必要です。お母様の行動一つとっても、どれほど天の父母様に対する考えが深いのかを感じ、救国救世基盤の造成に対するお母様の心情が切々と伝わってくる時間でした。実体を持った真の父母の尊さを感じながら、私はどれほど幸せ者かと感謝しました。（第14地区茨城教区・牧会者）

文妍娥様のメッセージ

以下のメッセージは、1月20日に東京・渋谷の松濤本部で行われた「第5地区青年学生特別集会」で、文妍娥様が語られた内容を翻訳・整理し、一部を抜粋したものです。（文責・広報局）



（訪日に先立ち）苦勞している日本食口に会いに行くことを真のお母様に報告したところ、お母様は食口たちが知らなければならない二つのことを教えてくださいました。

一つ目は、真の父母様の価値です。つまり真の父母様とはどういうお方なのか、この地になぜ来られ、どんなことをしてこられたのかを知らなければならないと言われました。

二つ目は、天の父母様（神様）の摂理についての理解です。聖書歴史6000年の中で、天の父母様は2000年前に独り子・イエス様を送ってくださいました。ご存知のように、イエス様は妻をめとらなければならなかったのですが、結婚できずに十字架で亡くなりました。

イエス様がこの地にもう一度来られるときには、小羊の婚宴をしなければならないという内容が聖書に書かれています。

イエス様が亡くなって以降の2000年間、天の父母様の摂理的な中心目的は何だったのでしょうか。2000年前には歴史に現れず消えてしまったイエス様の新婦、独り娘の基盤をつくるということが、摂理歴史の最終的な課題だったのです。

ですから、独り子（イエス様）が生まれて以降の2000年間において、イエス様当時に生まれ、小羊の婚宴をして真の父母にならなければならなかった独り娘、人類の真の母となるその独り娘の基盤を、天の父母様が再び一つ一つ準備してこられる役事があったということを知らなければなりません。

これはお母様がどういうお方かという話ではありません。天の父母様の摂理的な意義がどこにあるのか。私たちは無知で分からないのですが、イエス様以降、天の父母様の摂理的な方向性、そして時代的な目的・課題が何であったかということをはっきり知らなければなりません。そういう意味で、独り娘の摂理的な意味を知らなければならぬとお母様はおっしゃったのです。

結局、真の父母様はなぜ来られたのか、イエス様以降の天の父母様の摂理が独り娘を送ることに集中されたのはなぜかというこの二つの内容を見れば、天の父母様の根本的な願いが何であったのかを知ることができます。

神様（天の父母様）の願われたことは何か、神様は私たち

がどのように暮らすことを願われたのかを知るためには、この人類歴史の根本であられる天の父母様のことを知らなければなりませんということなのです。

天の父母様の願いが分からなければ、真の父母様を送って何をしようとしたのかということが分かりません。ですからこの最後の時代、独り娘を送るためになぜ摂理が必要であったのかということを知らなければなりません。

皆さんは、ただお父様とはどんなお方なのか、お母様はどんなお方なのか、真の父母様の意味は何かということだけではなく、その根本に戻って、天の父母様は何を願っておられるのか。この地球全体が天の父母様を本当に尊敬する父母として侍ることのできる世界になるまで、まだ残された課題がある中で、天の父母様が何をなさそうとされているのかを知ることが重要です。

ですから皆さんは、根本的な問いを抱きながら、見えない無形の神様の内的な願い、そして人間の墮落以降、神様が実際に（人間の）創造以前からどういう過程を経てどう生き方をし、どういう役事をして摂理歴史を綴ってこられたのか。またこの時代を迎え、真の父母様を送るまで神様が何をしてくられたのかといったことに関心を持って、それを知ろうと努力していただければと思います。

そうして知っていけば、天の父母様ももっと近くに感じられ、ただ考えの中にある全知全能の神様ではなく、私たちが愛して下さる神様が感じられるようになってくるでしょう。常に神様と共にいることを感じ、神様に侍って暮らす皆さんになってくれることを願います。

お母様の二つの願いも、皆さんがその答えをはっきり知るためにも、根本に戻って、天の父母様の願いが何であったのかということを知らなければなりません。

真のお母様は「天の父母様の願い、人類の願い——それは真の父母だ」と整理してくださいました。

なぜ天の父母様の願いが真の父母様なのかということを知らなければなりません。そういうことを考えてみてください。頭の中で考えるだけでは答えは出ないので、すべてを教えた下さった真のお父様のみ言を一生懸命に訓読し、精誠を尽くしてください。

また、天の父母様のみ旨や事情、心情について真のお母様はたくさんみ言を語ってくださいています。ですから、お母様が語られる内容に関心を持っていけば、天の父母様についてももっとよく分かるようになるでしょう。

①メッセージを語られる文妍娥様（1月26日） ②メッセージに耳を傾ける第5地区の青年学生（20日） ③第14地区の特別集会で（21日）
④第3地区の特別集会で美しいコーラスを披露した聖歌隊（23日） ⑤参加者と握手をされる文妍娥様（21日）

宋総会長夫妻・徳野会長を迎えて新年を出発



①第9地区の青年合同の出発式(1月22日) ②青年学生にメッセージを語る宋総会長(22日) ③第12地区の出発式で食口たちを激励する徳野会長(13日) ④メッセージを語る李海玉総会長夫人(22日、福岡家庭教会) ⑤宋総会長のメッセージを聴く参加者(8日、北愛知・名城家庭教会) ⑥親子で愛らしい踊りを披露(22日、香川教会「御聖誕記念礼拝」) ⑦宋総会長の掛け声に合わせて全体で勝利の決意表明(19日、第13地区「新年出発式」) ⑧徳野会長の説教を聴く参加者(22日、香川教会「御聖誕記念礼拝」) ⑨李海玉総会長夫人に抱擁され感激する婦人(14日、中央北海道・釧路家庭教会)

2017年、^{ひのと}酉(赤い鶏)の年を迎え、宋龍天総会長ご夫妻と徳野英治会長は、文字どおり日本列島の北から南まで精力的に巡回。各地で行われる新年の出発式などで今の摂理的な“時”を訴え、今年1年の方向性を示しながら、集まった多くの食口・祝福家庭に慰労と激励のメッセージを伝えています。

あったのにもかかわらず、子女の道理を果たすことができませんでした。お母様のご在世時に、天の父母様の夢、真の父母様の夢、私たちの夢を実現できる私たちとなれるよう責任を共に果たしていきましょう」と語りました。

宋龍天総会長は1月8日、ご夫妻で第8地区北愛知教区の名城家庭教会で今年最初の礼拝を行ったのを皮切りに、11日には都内の会場で行われた第5地区出発式、15日は献堂1周年を迎えた兵庫教区東神戸家庭教会の記念礼拝、19日は熊本市で開催された第13地区の新年出発式に参加。さらに20日に^{かしはら}広島家庭教会、21日には大阪家庭教会と奈良教区^{かしはら}檀原家庭教会を巡回しました。

徳野英治会長は1月7、8日に北長野、南長野両教区を巡回した後、13日に福岡家庭教会(福岡市)で「第12地区2017年出発式」に参加。自らの神氏族メシヤ活動に触れながら、「今の時代は迫害を恐れるのではなく、勇気をもって一步を踏み出し自分の立場を証していかなければなりません。2017年度は神氏族メシヤ元年とし、お母様に希望を与えられるようお支えしていきましょう。第12地区、福岡県にお母様をお迎えしましょう!」と訴えました。

また、20日には仙台家庭教会(仙台市)で開催された「第2地区責任者出発式」で教会員を激励。22日には香川県高松市内の会場で行われた香川教区「真の父母様御聖誕記念礼拝」で説教し、地元議員や新規・再復帰のゲストを含む1000人以上の参加者に対し、家庭連合・統一運動の真の姿を語りました。

宋総会長は8日の名城家庭教会での新年特別記念礼拝で、「丁酉年、人類の夢を成していく私たちを天が祝福して下さる年です」と強調。私たちに対して意識を転換して救国救世に向かわなければならないと強調される真のお母様の深刻な心情を訴えながら、「本来、真のお父様のご在世時に救国救世基盤の造成を成すべき責任が

李海玉総会長夫人は13日、入堂1周年を迎えた日本最北端の旭川家庭教会(北海道教区)を初めて訪問。およそ100人の教会員が集まる中、厳しい寒さを吹き飛ばす、熱気があふれる特別礼拝となりました。

礼拝で李海玉夫人は、「人生で一番重要なことは信仰です。神様という親がいるのに恐れる必要はありません。神様が私を愛していることを信じてください」と強調。自らが復帰された時のエピソードを紹介した上で、「祝福できるのは親だけです。天が責任を持つのです。サタンは信仰をあきらめさせることが狙いであり、私たち自身の手ではサタンに勝つことはできません。信仰を失えば“死”です。どれほど強く信じるのかで、成功か否かが決まります」と力強く語りました。

翌14日、李海玉夫人は釧路家庭教会(中央北海道教区)の特別集会でメッセージを語った後、3年前に真のお母様が訪問された鶴見台を訪ね、100羽近く飛来していたタンチョウの前で、教会員たちと記念写真を撮るなど、貴重な時間を過ごしました。

また22日には、福岡家庭教会で行われた「特別礼拝」で説教。引き続き、「韓日・日韓国際家庭特別集会」では、

国境を越えて歩む国際家庭の食口たちを慰労しました。

青年学生に直接メッセージ

宋総会長は巡回の中で、「二世圏にどれだけ投入するか、ここに日本の未来がかかっています。日本の全ての青年がアイデンティティを悟り、神の血統、真の父母様の血統を受け継いだ子女であると悟るよう導かなければなりません」と強調。2017年は二世圏の活性化と祝福推進を最優先の目標に掲げて推進することを表明しています。第8、第9地区では青年学生に直接メッセージを語る機会もありました。

8日に名城家庭教会で行われた「第8地区青年大学生特別集会」で、李海玉総会長夫人は「ここに集まったメンバーは重要な中心人物です。祝福二世は血統的二世であり、一世は心情的二世であり、全員が二世なのです」と説明。また宋総会長は、二世圏に対する真の父母様の願いと日本の使命、家庭連合の方向性を解説した上で、「真の父母様の直系の子女であるという確信を持って成長し、摂理の中心人物となってください」と激励しました。

“渋谷ミッションセンターは救国救世を決定するノアの方舟”

開所1周年を記念して特別集会



① 宋総会長の揮毫を掲げて記念撮影
② 堀教区長の報告を聴く参加者
③ 様々な背景をもつ伝道前線メンバー



南東京教区では堀正一教区長のもと祝福伝道に取り組んで4年目を迎えています。年に1度、都内のホテルで行う祝福式を中心に、この3年間で2000双の独身・既成祝福式が行われました。

一昨年秋から渋谷、孝成両家庭教会合同の取り組みを皮切りに、青年伝道を本格的にスタートさせ、昨年1月、教区の伝道所として宋龍天総会長の祝祷を賜り、「渋谷ミッションセンター（SMC）」を開所。この1年間で青年30人が礼拝に参加するまでになりました。

1月7日、「SMC開所1周年記念特別集会」が、本部長を含む約120人の教会員が集う中、宋総会長をお迎えして執り行われました。

有明久江・教区婦人代表の報告祈祷、青年たちによるダンスに続き、堀教区長がSMCの年間活動報告を行い、この1年で562人の受講決定があり、30人の新しい青年教会員が誕生した事などを報告。続いて、この1年間の伝道勝利者3人による感動的な証しに全体が復興する中、宋総会長が次のようなメッセージを語りました。「ここはノアの方舟です。皆さんの活動を通して日本の救国救世の活動基盤が決定されます。SMCはMSC(モ

ナコでの真の父母様の写真に写っていた船の表記)です。“Most Successful Church”、一番成功する教会です。ですから孝情です。孝情の心情を成すSMCになる時に、皆様の個人、家庭、教会の全てのコミュニティの中に父母様の祝福が臨み、皆様によって日本は栄えるでしょう。年頭に下された真のお母様のみ言『真の父母様に侍る国は必ず栄える』を心に刻み、天の父母様の下にすべての人々が私の兄弟姉妹であるという確信をもって、毎日のように自己伝道、内部伝道、そして真の愛を実践する外部伝道に励むとき、SMCは日本を引っ張っていくでしょう」

今年は自叙伝書写と自己牧会プログラムを融合させた「わくわく自叙伝書写」の取り組みをスタートさせ、地域家庭集会を中心として祝福を受けた氏族の教育等にも用いていく予定です。

VISION2020実現の先頭に立って、神氏族メシヤの勝利に向けて大きく飛躍していこうという決意と喜びを胸に、教会員一同が一丸となって取り組む思いを新たに特別集会となりました。

神様が準備された神氏族メシヤ家庭教会

第13地区「認定式」に36家庭が参加



① 認定式の参加者
② 講義を行う矢野局長
③ 認定書を授与する永井地区長

第13地区熊本教区の熊本阿蘇家庭教会で1月21日、「地区認定神氏族メシヤ家庭教会認定式」が開催されました。今回は、第13地区の各教区から36家庭が認定を受け、この日参加できなかった2家庭を除く34家庭が認定書を授与されました。認定家庭の内訳は、熊本教区12家庭、大分教区7家庭、宮崎教区5家庭、鹿児島教区12家庭です。

認定書の授与に先立ち、永井義行第13地区長が挨拶し、「地区認定の家庭教会で終わるのではなく、今後実績を積んで本部認定の家庭教会として発展してください」と語りました。

その後、矢野治佳伝道教育局長による1時間の講義があり、真の父母様の願いに対する認定家庭教会の使命を確認する時間となりました。

認定書授与式では、永井地区長が各家庭に認定書を授与しました。

認定式の最後は、それぞれの家庭が決意表明。霧島家庭教会の有村吉孝・桂子家庭は「第13地区の36家庭に入ることができ、感無量であり、氏族復帰、地域発展に寄与していきます」と抱負を述べました。

それに対して永井地区長が「第13地区の認定家庭教会が36家庭で始まったということに今気づきました。神様が準備された家庭であると確信しました」と語りました。



【参加者の感想】

● 教会と家庭教会との連携が今後の摂理の進展、及び伝道の拡大に不可欠だと感じました。夫婦一体となり霊的準備を成し、週1回の礼拝を守り、伝道・再復帰等に力を入れていきたいと思えます。(熊本教区 1800双家庭)

● 神氏族メシヤの摂理は、私達が「第二の真の父母になる道」、そして「真の父母様が祝福家庭に与えて下さった最高のプレゼント」です。真の父母様の私達に対する深い愛を神氏族メシヤ摂理の中に初めて感じる事が出来ました。(鹿児島教区 6000双家庭)

● 神氏族メシヤは真の父母様からのプレゼントであるならば、親の思いに応えることのできる子女でなければならぬと思えました。色々な事情を乗り越えて、孝の心情を先立てながら、必ず勝利していくと揺るぎない決意を固めています。(宮崎教区 6000家庭)

各地で自叙伝書写イベント開催

今年に入っても各地で書写イベントが開催され、真のお父様の自叙伝『平和を愛する世界人として』の書写を通じ、多くの人々が恩恵を受けています。

1月22日、東東京教区江戸川家庭教会では、「新春大江戸書写奉納式」が行われ、午前と午後を合わせて、800人以上が参加しました。

エンターテイメントでは、小学生から青年までの40人による合唱や青年のダンス、壮年メンバーによる合唱など真心を込めた演目が披露されました。

また矢野治佳伝道教育局長が「家庭は天国の出発点」と題して講話。初めての参加者も感銘を受け、共に書写を体験しました。

同じ22日、西東京教区武蔵野家庭教会に浅川勇男先生をお迎えし、「文鮮明先生御聖誕記念祝賀 第46回自叙伝書写感謝の集い」を開催。教区の6教会でインターネット中継を通じて参加した人を合わせ、およそ1230人が参加しました。

また1月12日に愛媛・松山家庭教会で「第11回

自叙伝 心の書写会」が開催され、300人が参加。同日、石川・金沢家庭教会で書写講演会及び奉納式が行われ、40人が恩恵を共有しました。



愛媛・松山家庭教会の心の書写会の参加者（1月12日）



東京都・江戸川家庭教会の壮年有志による合唱

新宿家庭教会で自叙伝書写パネル展

1月20日から22日まで、「平和を愛する世界人として」をテーマに、自叙伝書写パネル展が新宿家庭教会（東京・高田馬場）で開催されました。教会員をはじめ、地元議員などのVIPや伝道対象者、地域住民なども多数来場したほか、この期間に来場できずに書写の奉納だけを行った人も含め、約1100人が同参。初日は浅川勇男先生が講演し、書写の奉納・伝授式も行われました。

このパネル展は、①書写の歴史②文鮮明師の生涯

に学ぶ③世界平和のための業績④自叙伝書写のすすめ——の4つのコーナーに分かれており、来場者のニーズに合わせてパネルがポイントを解説し、その後は紹介者と歓談・交流を楽しみました。

会場の一角には書写コーナーが設けられ、初めての方も気軽に書写を体験していました。

また、聖所巡礼のため来日していた韓国・京畿北部教区の中高生30名が来場。東東京教区の中高生と交流会を持った後、パネル展も見学しました。



パネル展で参加者に説明するスタッフ



書写コーナーで書写体験をする若者

栃木教区の祝福式に20～80代のカップルが参加

1月21日、栃木教区において今年初めてとなる「2017天地人真の父母様天宙既成祝福式」が行われ、既成8組、独身20組の合計28組の祝福家庭が誕生しました。今回は20代から80代まで幅広い年齢層のカップルが参加。老いも若きも共に祝福の恩恵に与かる希望あふれる祝福式となりました。

祝福式では、主礼の沈吉来栃木教区長が、真のお父様の自叙伝から「神の愛は、父母の愛であり、父母の愛は自己を犠牲にして他の為に尽くす愛である」という一節を紹介しながら、「神の愛を中心として、真の家庭をつくっていきましょう」と力強く呼びかけました。

式典後の祝賀午餐会には新郎新婦と祝賀客など80

人あまりが参席しました。

その中で、今回祝福式に参加した20代のカップルが証しを行い、「幼いころから両親に『祝福を受けないか』と勧められてきましたが、祝福の意味が分からずに過ごして来ましたが、しかし先駆けて祝福を受けた夫婦が、とても仲が良く、お互いが助けあっている姿を見て、『自分も祝福を受けたい』と思うようになりました」と語りました。



山形で「こころがあったかくなる新春講演会」

1月22日午前、山形市内のホールで「こころがあったかくなる新春講演会」が開催され、約300人が参加しました。

オープニングのエンターテイメントでは、オペラ歌手である姉妹のクラシカルボーカルユニットが冬の歌のメドレーを披露し、叙情的な美しい歌声が会場を包み込みました。

鈴木和章山形教区長の主催者挨拶に続き、鴨野守広報局長が「幸福な自己犠牲 永遠の愛」と題して講演しました。

講演は、家庭連合時代にふさわしい、本質的な家

族の絆の尊さに焦点を当てた内容で、ジャーナリストとしての豊富な現場取材に裏付けられた事実と実感に基づいた一言ひとことが、参加者の心に響きました。

講演の後にはサプライズで、講師とのジャンケンに勝った約30人に書籍などのプレゼントがありました。



広島家庭教会のファミリーフェスティバルに500人

1月22日、西広島教区広島家庭教会は広島市内のホールで「ファミリーフェスティバル in 広島」を開催し、新規・再復帰のゲスト100人を含め500人以上が参加。120日路程勝利に向けて、壮年・婦人・青年・学生が一体となり、まさに家庭連合時代にふさわしい幕開けとなりました。

フェスティバルでは、阿部美樹家庭教育局長が「幸福の礎・家族愛」をテーマに基調講演。家族愛につ

いて改めて振り返る時間となりました。

エンターテイメントでは、美しいチョゴリ姿の韓国婦人のコーラスや中高生による渾身の劇が披露され、参加者に深い感動を与えました。

